

新センター長就任

医学部長 片岡寛章

このたび、丸山眞杉前医学部長のあとを引き継ぎ、医療人育成支援センター長を拝命いたしました。折しも医学部医学科が医学教育分野別認証評価を受審する時と重なっており、受審のための自己点検評価報告書を読み込んでおりますと、医療人育成支援センター設置の先見性と本学医学部における重要性がまざまざと浮かび上がってまいります。

医師と看護師の養成における一貫した卒前・卒後教育を実践し、本学の教育理念実現と地域医療を守るために、本センターは小松弘幸教授（副センター長）のもとスタッフ一同が日夜奮闘しております。本センターの活動に、これまで以上のご協力とご支援をお願い申し上げます。



学会発表報告

日本医学教育学会

2018年8月2～3日に、東京医科歯科大学にて第50回日本医学教育学会大会が開催されました。今年は、「プロフェッショナリズム教育のあり方」、「医師のキャリア教育のあり方」、「行動科学・社会科学教育の位置づけ」、「臨床実習での学生の能力・資質をいかに評価するか」、「平成32年度からの臨床研修制度見直しへの対応」などがトピックテーマとして印象的でした。本学からは副センター長の小松医師が、「シムリンピックの教育インパクト—4年間を振り返って—」のシンポジストとして登壇し、シムリンピック開催による全国医学生へのシミュレーション教育の拡がりや新規課題の作成過程とその成果について発表を行いました。（小松）



日本シミュレーション医療教育学会

2018年6月2日に岐阜大学医学部にて第6回日本シミュレーション医療教育学会大会「卒前・卒後の更なる連携をめざして」が開催されました。本学からは長野健彦先生が一般口演/多職種「研修医と看護師を対象とした宮崎県病院内メディカルラリー開催の新たな試み」、船元太郎先生が一般口演/卒前医学「剽窃疑いのある実習レポートの解析」をそれぞれ発表されました。



とした宮崎県病院内メディカルラリー開催の新たな試み」、船元太郎先生が一般口演/卒前医学「剽窃疑いのある実習レポートの解析」をそれぞれ発表されました。



書籍紹介

医療人育成支援センターが書籍を制作!



2018年8月に、医療人育成支援センターと宮崎県地域医療支援機構の共同プロジェクトとして、宮崎大学医学部で1年生（医学科・看護学科）に行っている講義「医学・医療概論」の内容を『宮崎の医療を担う、君たちへ』として書籍化し、医師・看護師をめざす県内高校生へ向けて約3,000部を配布しました。

2016年度に行った全8回の講義から6回分を厳選して収載しています。内容は、「疫学の祖「高木兼寛」に学ぶ」（清山知憲先生）、「ごちゃまぜIPE（多職種連携教育）で変わる医療」（吉村 学先生）、「チーム医療とコミュニケーション」（日高真美子先生）、「いのちのケア」（林 章敏先生）、「人の生と死に直面して、医師として考えること」（栗田正弘先生）、「命を救うための攻めの救急医療」（落合秀信先生）です。

宮崎県の医療の現状データについても資料編として掲載しています。本書を手にとった県内高校生が、将来の宮崎の医療を担う医師・看護師として第一歩を踏み出してくれることを願っています。

●臨床医学教育部門

医学科講義 ～早期地域医療実習～ (医学科2年生)

今年度も8月に4日間「早期地域医療実習」を行うため、事前講義を行いました。今年度の新しい試みとして、「食事介助・嚥下体験」「認知症におけるロールプレイ」を取り入れました。

～食事介助・嚥下体験～

「食べることが生きがい」という人もいますが、身体機能の面からも「食べることは生きること」と言えると思います。

食事の重要さから食事介助を実習に取り入れている施設が多く、本年は言語聴覚士の木本先生のご指導の下、食事介助体験を行いました。2人ペアになり、適切な食事介助の方法やコミュニケーションを学びました。感想では「技術を学べた」だけでなく、「食べさせられた時の食べにくさ」を挙げる学生もいました。介助される側の気持ちが少しでも理解できる良い体験になったと思います。(船元)



〈実習受け入れ施設より〉

～三州病院(都城市)ホームページより～

今後、医師を目指す上で基盤となる豊かな人間性に繋がる多くの事を学ばれていました。4年後に医師としてのスタートラインに立たれた時に、今回体験し感じられた事を思い出していただける事を期待したいと思います。

～認知症におけるロールプレイ～

認知症の方は現実の世界と違う世界を体験していると言われていています。それを体感してもらうために、同じ場面でも捉え方が異なるシナリオを2つ用意し、学生2人1組になってロールプレイを行ってもらいました。学生からは「現実の世界と自分の記憶が違っていると、不安と恐怖に襲われることが分かった。」等の感想がありました。演習を通して相手が体験している世界を想像し、気持ちに寄り添う姿勢が大切であると気付くことができたのではないかと思います。(看護実践教育部門/加藤)



～千代田病院(日向市)広告誌「そよかぜ」より～

学生の実習の感想を記載していただいております。学生の感想「実際に体を動かすことで、改めて看護・介護職の重要性、多職種連携の必要性を感じることができました。」「机上だけでは決して学べないすばらしい体験をさせていただいた。」

●看護実践教育部門

看護部研修 ～救急蘇生指導者講習会～

平成30年6月26日(火)に、各部署の教育担当看護師を対象とした、救急蘇生指導者講習会を開催しました。今回の講習会では、長野医師(救命救急医)による救急蘇生の指導ポイントや、シナリオシミュレーションの一連の流れに関する講義及び演習を行いました。受講者からは、「チームダイナミクスを学ぶ重要性が分かった。」等の感想があり、今後も看護部現任教育における救急蘇生勉強会を、各部署のニーズに応じて支援をさせていただきます。(釋迦野)



保健師研修 ～感染予防技術研修～

平成30年6月29日(金)に、感染症教務(主に採血業務)に関わる宮崎県保健師(新任期)を対象にした研修会を開催しました。この研修は、採血技術と个人防护具の着脱に必要な基本的技術を習得できるようにと、宮崎県医療業務課(看護担当)と協働し、企画・運営したものです。受講者からは、「採血への漠然とした不安があったが、正しい手順を改めて学んだことで自信を持つことができた。」等の感想があり、今回の研修の学びが、今後の実務に向けて自信となっていただければと思っています。(山本)



●医療シミュレーション教育統括部門

平成24年10月から、宮崎大学医学部附属病院職員を対象とした「全職員BLS講習会」を、救命救急センターが中心となり開催しています。平成29年4月から、医療シミュレーション教育統括部門が担当させていただいております。受講者は医師、看護師だけでなく、放射線技師、検査技師、リハビリを担当するPT、OT、STの方々など、医療に関わる全て職種を対象としています。今年度で6年経過し、約1300人の方々が受講し、院内の心肺蘇生の技術は確実に向上していると思われます。

平成29年度からは蘇生ガイドライン2015に則った新しい講習会に生まれ変わりました。DVDでの映像学習の直後に手技を練習する「watch then practice」の方式で行い、心肺蘇生法の学習に加え、人形を使った気道異物解除の実習を取り入れ、受講者には好評を得ています。また、講習会で使用するシミュレータは最新の機種を使用しており、胸骨圧迫の深さ、速さ、リコイルの正確さ、人工呼吸の正確さを可視化し、リアルタイムで受講者にフィードバックできるシステムを搭載により、質の高いBLSの修得に役立っています。



受講後アンケートでは、多くの方が満足していますが、「自信をもって一人でCPRができるか?」の問いに対しては、自信があると答えた方(6段階中、5以上と回答した方)は55%と約半数という結果でした。受講者を医師や看護師以外の職種も対象としているため、普段の業務で患者さんの急変に立ち会う機会が少ない職種にとっては、1回だけの受講では自信が持てないのかもしれませんが、全職員を対象としたBLS講習会であるため、多職種に配慮した講習会として学習方法の改良を重ね、今後も楽しく、効果的な講習会として継続・発展させていこうと思います!(長野)



<講習会への参加>

●医療人キャリア支援部門

平成30年度宮崎大学医学部5年生対象 未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI

平成30年9月3日、台風21号が迫りくる中、幸い天候は大きく崩れず「未来の医療を語る全員交流会」が開催されました。医師のキャリアには様々な選択肢がありますが、それを目前に控えた5年生に向けて小松教授の実例を交えた「医師のキャリア」、宮崎県医師会常任理事の荒木先生から宮崎県医師会の「女性医師キャリア支援」策の講演からスタートしました。河野俊嗣宮崎県知事には忙しい公務にも拘らずご臨席賜りました。「学生時代に自身の将来像は持っていたが、仕事を決める節目節目に出会いがあって当初とは異なる省に入省し、充実した仕事ことができました。仕事を通じて、仕事以外でもさらなる出会いがあって今では県知事をやっています。」とスピーチを頂きました。これから様々な選択をする5年生には非常に参考になるお話だったと思います。参加した学生からは「普段の臨床実習では聞くことのできない先輩医師たちのキャリアや生活を聞くことができて参考になった、楽しかった。」との感想を複数聞き、キャリアを考える有意義な時間となったのではないのでしょうか。(船元)



河野宮崎県知事を囲んで



医師のキャリア 医師の留学実態に関する調査報告

医師がキャリアを形成する上で「留学」がひとつ大きな経験となるのではないのでしょうか。そこで臨床系診療科に所属している医師を対象に留学について調査を行いました。男性42名、女性3名の計45名の医師からご回答頂きました。20年以上のキャリアを持っている医師からの回答が46.7%で約半数を占めておりました。国内、国外を合わせた留学は62.2%の医師が経験しており、中には3回以上留学されている医師もいました。また現在留学経験のない医師でも約6割の先生方が、機会があれば留学したいと考えている結果でした。

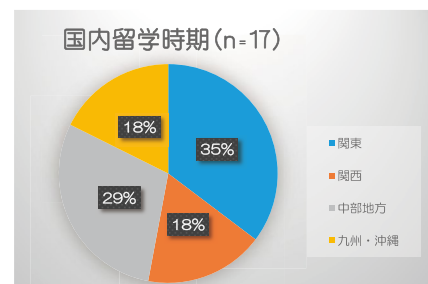
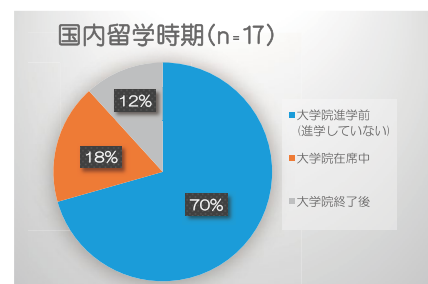
国内留学編

国内留学の経験のある医師のうち64.7%は医師免許取得後5年から10年の間に留学されていました。58.8%の医師が専門医を取得してから留学されておりおりました。留学期間も58.8%の医師が1年以上留学しておりました。国内留学の主目的は医療技術の習得が58.8%で最も多かったですが、専門技術を学ぶため留学先で大学院に入学された医師もおられました。臨床研究、基礎研究目的の医師もそれぞれ23.5%、29.4%おられました。留学先の選択は自身の希望、上司の勧めがそれぞれ半数ずつでした。

留学時に配偶者がいた方が86.7%でしたが、単身留学か家族を伴って留学先へ行ったかについてはほぼ半数ずつに別れました。留学時に子どもがいたかどうかは単身留学か、家族とともに留学かはあまり関係していないようでした。留学資金はほとんどが留学までに蓄えた自己資金と現地で医師として働いたことで賄っていましたが、医局、同門会、大学から奨学金を支給された医師もいました。留学したことで良かったことについては「主目的の技術の習得、研究成果」が高いのは当然ともいえますが、最も回答が多かったのは「人脈を作ることができた」でした。また、30-40%の医師が「主目的以外の技術習得、研究できた」「自分の進路・専門領域が定まった」などキャリア形成に作用したようです。また、「留学先の生活を楽しむことができた」と環境が変わってリフレッシュできた医師も少なくありませんでした。

一方留学時の苦労については「住居・生活環境」「留学費用」が50%、43.8%でしたが、「家族関係」と回答した医師も25%いました。留学のデメリットについては53.3%の医師が「金銭面」と回答していますが、「デメリットは特になし」と回答されている医師も40%いました。また、全ての医師が留学に迷っている後輩がいたら行くことを勧める、と回答していました。

今回は「国外留学編」をお届けいたします。



第8回女性医師・看護師のための復職支援プロジェクトを開催します!

結婚・出産・子育てのために臨床の現場から離れている方で、もう一度復職したいと考えていても現場復帰は不安という方のために、今回もシミュレータ(人形)を用いた講習会を開催します。今回は、どの施設でも身近に起こりうる事例に基づいた講習会を2回企画しました。連続講習会ではありませんので、**1回のみの参加が可能**です。

復職を考えている皆さまの参加をお待ちしております。

【日 時】第1回 平成30年11月 2日(金) 13:00~16:00 ***申込み締切***
第2回 平成30年11月30日(金) 13:00~16:00 平成30年10月26日(金)

【場 所】宮崎大学医学部臨床技術トレーニングセンター(宮崎大学医学部内)

【対象者】復職希望の女性医師・看護師(パートの方も含む) 各回20名

【内 容】シミュレーションを用いた実技・演習

第1回「入院患者の発熱!! あなたならどうする?」

第2回「患者家族が!! 駐車場で倒れていたらどうする?」

【申込み】<https://goo.gl/forms/ILBNRmeBbVbt9xri2> または ホームページ:<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

復職を考えている皆さまへ
第8回 女性医師・看護師のための復職支援プロジェクト
宮崎大学医学部 臨床技術トレーニングセンター
「結婚・出産・子育てのために臨床の現場から離れている方で、もう一度復職したいと考えていても現場復帰は不安という方のために、今回もシミュレータ(人形)を用いた講習会を開催します。今回は、どの施設でも身近に起こりうる事例に基づいた講習会を2回企画しました。連続講習会ではありませんので、1回のみの参加が可能です。」
【第1回】
入居者の発熱!! あなたならどうする?
～実技演習～
11月2日(金) 13:00~16:00
【第2回】
駐車場で倒れていたらどうする?
～実技演習～
11月30日(金) 13:00~16:00
【申込み】
宮崎大学医学部臨床技術トレーニングセンター
〒880-0001 宮崎県宮崎市中央2-1-1
TEL: 0985-581111 FAX: 0985-581112
E-mail: info@med.miyazaki-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>
申込み締切: 平成30年10月26日(金)

● 新任教員紹介



臨床医学教育部門
助教 宮内 俊一
(卒後臨床研修センター副センター長)

医学部附属病院では膠原病感染症内科の一員として勤務しております。縁ありましてお声がけいただき、2018年4月から臨床医学教育部門のスタッフとなり、同時に卒後臨床研修センター副センター長を拝命いたしました。医学生や看護学生、若い医師や看護師のみなさんの声を聴き、先輩としてメッセージを届けることはとても楽しくやりがいがあり、この巡り逢いを大事にして自らも研鑽を積んでいく所存です。教師一家に育ちましたので、教育の分野に親和性のあるDNAは持ち得ているのかもしれませんが、よろしくお願いいたします。



看護実践教育部門
助教 釋迦野 陽子

皆さん、こんにちは。4月から、医療人育成支援センター看護実践教育部門に配属されました釋迦野陽子です。宮崎医科大学(現 宮崎大学)医学部看護学科を2期生として卒業し、附属病院へ入職しました。入職後は、1階東病棟、7階西病棟の勤務を経て、3月まで光学医療診療部で副看護師長として勤務しておりました。これまでのほとんどが病棟勤務であったため、未熟な点が多々あると思いますが、臨床での実践経験を活かして、卒前・卒後・多職種連携教育など看護実践教育部門の役割を果たすことができたらと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 宮崎県地域医療支援機構大学分室だより

平成30年8月19日(日)、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会主催「宮崎から医師を目指そう! フォーラム」がニューウェルシティ宮崎(宮崎市)で開催されました。この日は、医学部を目指す宮崎県内の高校生やその保護者、学校関係者154名の参加がありました。



PART1・2では、県内の地域医療の現状や医学部での6年間の学習内容の説明、PART3では、県内の医療現場で活躍されている5名の医師が、専門分野に至るまでの自身のキャリアについて語り、PART4では、現役医学生4名が、医学部の受験勉強法や合格のコツを紹介しました。医師を目指す高校生は参考になったのではないのでしょうか。会場から、「最後の模試は何点?」「面接練習回数は?」と学生らしい質問が飛び交っていました。(舟橋)



■ 2018年 Post-CC OSCE(臨床実習後 OSCE)における標準模擬患者養成

2020年に全国82校の医学部で正式に実施されるPost-CC OSCEに向け、本学はH30年度トライアル校に指定され(56医学部が参加)、平成30年7月28日(土)にPost-CC OSCEを実施しました。OSCE実施には標準模擬患者(SP)の参加が必要です。昨年までは本大独自に養成されたSPに加え他大学のSPにも応援をいただき、試験を実施していましたが、今年からは将来を見据え、宮崎のSPのみでの実施することになりました。



しかし、今年は医療系大学間共用試験実施機構(CATO)のトライアル用課題2題と宮崎大学の課題1題を実施したため、従来の人員では足りず、試験実施を前に新たなSPの養成を行いました。その結果11名のSPを新規に養成し、試験当日は22名のSPに参加していただき、無事に試験を実施することができました。来年度は更に課題が増えると考えられます。これまでに養成したSPの皆様引き続きご協力いただくとともに、新たな人員確保のため鋭意SPの募集・養成を行っていききたいと思います。(安倍)



医療人育成支援センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成支援センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoku@med.miyazaki-u.ac.jp